R７夏季大学　感想【第3講座】

【オンライン】

○自分には書けないアイデンティティがあり、あ、気にしていたんだ、と気づかなかった自分に 気づくことができました。子どもたちに「どうした？」と聞くことを意識していますが、忙しさにかまけて、決めつけてしまっている部分もあります。子どもたち、そして自分のためにも話をじっくり聞ける人間でありたいと思いました。

○人権と道徳を同じように授業をしていたことが恥ずかしく思えました。

○養護教諭として日々子どもたちと関わる中で、悩みを抱える、今日のお話で言うといわゆる少数派の子どもたちと関わることが、担任と比べると多い立場であることを改めて自覚しました。“少数派は忘れられてしまう存在”“相談できない＝自己肯定感が下がる”どれも保健室こそ丁寧に関わることができると思うので、今日のお話を活かした子どもとの関わりを、夏休み明けからしていきたいと思いました。ありがとうございました。

○自分の学級経営をもう一度見つめなおせる、大変良い機会でした。思い込みをしないように、自分の中で「なんで」が口癖になるようにしたいです。ありがとうございました。

○改めて、自分自身の子どもたちへの向き合い方を振り返る良いきっかけになりました。４月から教員として働く中で、子どもたちの気持ちを大切にして関わってきたつもりでしたが、振り返るとあのとき、あの場面は決めつけや思い込みで声をかけてしまってなかったかなと反省するところもありました。自分の姿をクラスの子どもたちはすごく良く見ているからこそ、まずは自分自身を見つめ直して２学期からも頑張っていきたいです。

○子どもをきめつけない。「どうしてん？」から対話を始めてみる。２学期から自校の子どもたちとの関わり方の第一歩として取り組んでいきたいと強く感じました。 自分もたこさんとなり、差別を生まない構造づくりを子どもたちと一緒に取り組んでいきたいと感じました。ありがとうございました。

○子どもを見る眼、子どもとの向き合い方、とても勉強になりました。１学期はとても悩むことが多かったですが、これまでの自分とは違う方法、考え方で、２学期の子どもたちと過ごしていきたいと思いました。ありがとうございました。

○今年も自分自身を見つめる時間になりました。自分のあたりまえは、なかなか変わらないなと思います。子どもを見る目を毎朝しっかり洗いたいと思います。ありがとうございました。

○これまでの自分の実践や生活を振り返り（反省）ながら講演を聞かせていただきました。今後もどうしたの？から始まる生徒指導を推進していきたいと思います。

○３年間続けて土田先生のご講義を聞かせていただけて感謝です。少しずつ自分の人間力を高めていけたらと思います。

○本日教えていただいたことをこれから活用していきたいと思います。

○ワークを行う上で教員自らがどれだけ開示していけるか、ということが印象に残りました。また、子どもたちとの関わりの中にある思い込みを無くし、「どうして？」「どうした？」と声をかけていきたいと思いました。そして、自分が示すことで子どもたちにも「当たり前」や「思い込み」にとらわれない姿勢を身につけていってほしいなと思いました。ご講演、ありがとうございました。

○「思い込み」をなくすことの大切さを実感できる講座でした。思い込みと思っていない思い込みが多々あるような気がするので、これからは「たこさん」になって、確認することを大切にしたいと思います。先生の具体的なお話は、とてもわかりやすく何度も、なるほど！と納得しながらの充実の講座でした。ありがとうございました。

○今年も土田先生のご講演をお聞きすることができて大変嬉しかったです。ワークを通して自分があたりまえと思っている感覚が、誰かをその場に居づらく、話しづらくさせてしまっているかもしれないことに気づく事ができました。どんなクラスにしたいか、子どもたちの声をよく聞き、共に話しながら、2学期から改めて子どもたち一人ひとりが安心して生活できるクラスづくりを目指していきたいと思います。本日はありがとうございました

○当たり前を見直し，自身の感性を問い直したいと思いました。生徒の声を聞くことの大切さと難しさを改めて実感しつつ，まずは「どうしたん？」から聞ける自分でいたいと思います。

○決めつけて子どもに接していることが今まで多かったと反省させられました。「決めつけ」から入るのではなく「どうして？」から問いかけてみる、ということをすぐに実践したいです。

○先生になってまだ間もなく、子ども達との関わり方や指導の仕方が合っているのかとても不安でしたが、今回の講義を受けて自分なりの答えが見つかったと思います。子どもはこういう子だという固定概念にとらわれず、一人一人と接していくことが大切だと感じました。ありがとうございました。

○自分がどのように子どもと関わってきたのかを改めて考えさせられました。思い込みや決めつけはしないようにと意識しているつもりでも、無意識のうちに少数派の子どもたちを傷つけていたかもしれません。２学期には「どうしたの？」「何かあった？」をキーワードに子どもと向き合っていきたいと思いました。

○思い込みでその子を見るのではなく、まっさらな心で子どもを見つめることの大切さを改めて感じました。「どんな人に言いたくないか」という質問も目から鱗で自分が普段保健室でどのように子どもたちと関わっているか考えさせられました。先生がおっしゃった「人権学習は生き方学習」という言葉がとても印象に残りました。子どもたちの礎を今まさに私たちが形成しているのだということを自覚し、夏休み明けから頑張りたいと思います。

○4年間視聴させていただきました。土田先生の思いが、長野の地でも花開くよう努めてまいります。ありがとうございました。

○明解、軽快なお話でうなづくことが多い研修でした。私自身は、子どもたちが出せない葉っぱ、言えない人がいることに気づかず、思い込みだけで子どもの前に立っていなかったか、深く考えるひと時となりました。「自分であってよい、こんなことを安心して言えるクラス」と子どもたちが実感できるクラスづくりをしていきたいと思います。ありがとうございました。

○本日はありがとうございました。自分の思い込みで、決めつけている担任の姿に触れられ、ハッとする部分がありました。本校は少人数のため、子どもたちの気持ちは把握していると思い上がっている自分がいました。「なんで？」「そうだったんか」という共感、受け止めを大切にしていきたいと思います。まずは自分が「たこさん」であるように、子どもを見る眼をもって、努めていきたいと思います。来年もぜひお話をお伺いしたいです。

○自分の学級経営を見直すと、決めつけから入ってしまっていたことが多く反省しました。当たり前を見直し、2学期新たな気持ちで子どもたちと向き合いたいと思いました。

○「子どもに聴け」という言葉がいかに大切なのかを実感しました。教師は自分の都合のよいように子どもを見て、決めつけてしまうことがあります。しかし、起こった事象をスルーせず、子どもの話を聴いて認め、一緒に考えるという過程がとても大切だと改めて感じました。時間はかかることですが、今の学校に必要なことだと感じました。3年間、お話をお聞きしましたが、とても学ぶところが大きかったです。ありがとうございました。

○クラスの子どもたちの顔を浮かべながら考えさせていただきました。この子はこんな子だと、わかっていたようなことも、それは単なる自分が勝手に決めつけたことや、思い込み・・思い込みや決めつけで指導してきたようなところもあり、先生のお話をお聞きし振り返り反省しました。 もう一度子どもたちのことを見つめなおし、たこさんのような言葉がけ、「なんで？」「どうした？」を子どもたちに投げかけていきたいと思います。

○「なんで？」「どうした？」「何があった？」みんなで聞き合える学校づくりを行なっていきたいと思いました。たった一言でも、子どもたちとの関わりが変わってくることも学ばせていただきました。 最近は、子どもたち同士は話が分かり合えるのに、そこへ親が絡んでくると話が拗れてしまうケースも多くあります。ぜひ、そういった場合の対応の仕方も教えてもらいたかったです。ぜひ、またご指導いただけると嬉しいです。

○自分の「子どもを見る眼」についてあらためて考える機会となりました。道徳と人権教育の違いというお話も、なるほどと思いました。

○お話がおもしろく、あっという間の２時間でした。人権学習と道徳の違いについてあいまいだったところがはっきりとわかりました。課題が多い学級ですが、自分も児童も思い込み・決めつけからの脱却を目指して、２学期からがんばっていこうと思いました。ありがとうございました。

○長水に戻ってきて3年間、土田先生のお話を拝聴できて、本当にありがたかったです。思い込みや決めつけをしないよう心がけているつもりでしたが、やっぱりつもりだけだったことに気づかされました。 少数派の存在をいつも無意識に虐げることがないよう、気をつけます。
○具体的な教材や、考え方、キーワードなど、早速実践したくなる内容で参考になりました。 毎年、お話をお聞きすることを楽しみにしていた講座でした。

○教師としての力量をさらに高めていきたいと思いました。 なんで　どうしたん　なんかあったん　そう問いかけられる自分でいたいし、クラスや学年でそう問い合える集団作りをしていきたいと思いました。 優しい関心を持てるようにしていきたいです。

○自分のあたりまえを問い直すという視点からお話いただきました。ついつい子どもを決めつけてしまうことがありますが、子どもの声に耳を傾ける大切さを感じされていただきました。本日は、ありがとうございました。

○憶測するのではなく、「どうして？」と聞いてみることが、差別をなくすのにとても大切なことだということが分かりました。

○自分自身の身の回りのことを見つめ直す機会となりました。来年度もぜひ聞きたい講座です。

○とても勉強になる講座でした。ありがとうございました。

○思い込みや決めつけをせずによく話を聞い、受け止め、考えていくことをこれから実践していきたいと思います。

○自分の発想で決めつけを沢山していることに気づくことができました。２学期から、「なんで？」「どうした？」をマイルールにしてやっていきたいと思います。

○自分の内面を見つめ直せる、よい講座だった。自分の内に秘めていることが人にすぐに言えないように、子どもたち一人ひとりにもなかなか口に出さないことはある。決めつけで相手を分かったかのように進めてしまうことがあるが、相手の話に耳を傾け、どう感じて何を伝えたいのか、時間をかけた分だけ信頼関係も築いていける気がした。まずは、何かあった時に、どうした？と問える自分でありたい。

○昨年に引き続き、楽しみに参加させていただきました。人権教育の大切さを改めて学び直させていただき、大変勉強になりました。ありがとうございました。

○また新たな気持ちで2学期も頑張ろうと思いました。 もっと児童の気持ちに寄り添う、そして自立につながる取り組みをしていこうと思います。

○全教職員の悉皆研修にしたほうが良いのでは？と感じる内容だった。昨年までもそうだが、とてもタメになった。

○「なんで？どうしたん？なにかあったん？そうやったんか！」というような語りかけをおこない,自立のための支援を行なうというお話が心に残った。今後の実践につなげていきたい。

○とても良かったです。自分の価値観が変わった気がします。今まで当たり前に思っていたことの中にこんなに思い込みがあったのだなぁと驚きました。具体的に「こんな風にはなしたらよい」と例もあげていただけてすぐに子どもたちと考えてみたいなぁと思いました。部落問題学習は私もちゃんと受けた記憶がなく、どうやってよいのか分からずにそのままにしてしまった所があります。その部分も学び直してみたいです。

○差別の構造から人権教育と道徳教育の違いなど整理しながら学ぶことができました。教師の生徒に対する思いこみや決めつけをなくす声がけの大切さは2学期からすぐに取り入れたいと思いました。生き方学習の人権教育を学校全体はもちろん、校種間、地域にまで広げられる取組を目指していきたいです。

○イカさん、タコさんの話、とても分かりやすく、また子どもたちにも落ちるものと思いました。思い込みということ、学校生活のなかでたくさんあります。そこをきちんと確かめていく、まずは教師が仲立ちとなってその時間をとることが大事だと思っています。

○忙しい中でも、もっと子どもと関わって、子どもの思いを聞けるようにしたいと思いました。また、思い込みや決めつけから、子どもが悲しい思いをすることがないように確認したり、クラスみんなで人権感覚を磨いたりしていきたいと感じました。

○今回教えていただいたことはとても興味深かったです。4月から受け持っている６年生ですが、こうしたことをやってみることがクラスのためにもなりそうだと感じたので、やってみたいと思いました。

○良かれと思ってやっていたり、これまで当たり前のように考えてきたりしたことを振り返るよいきっかけになりました。教師の思い込みや押しつけではなく、本当の意味で子ども達の願いに傾聴し、子ども達が本当にそうなりたいのか？という視点を忘れずにいたいと感じました。

○思いこみや決めつけをしない子ども達にしていくためにも、まずは自分がそうなろうと意識しようと感じました。「なんで？」を言うように意識しようと思います。

○初めて拝聴しました。私自身、授業中でも「なんで？」「どうして？」をよく使っていたのですが、生徒指導に当たるときには主観が入ってしまうこともあるなと気付いたので、もっと子どもの声を聴かないといけないなと振り返ることができました。自分のことを聴いてくれる人の話は、多分聴きたくなると思います。アドバイスとか指導はいらないので、「聴く」ことがどれだけ安心につながるかわかる気がしました。

○先生のお話を聞いて3年目です。昨年度お聞きしたお話も出てきて、わかる・考えることができるようになってきました。これからの自分に生かします。

○人権教育の核をズバリ教えていただき、自分のあたりまえを問い直す必要性を痛感しました。以前、部落問題をなぜ扱うか、と若手が言っていたと聞いた時、どう答えればよいのだろうと思いましたが、土田先生のお話が胸に落ちました。無知は罪だと思います。

○３年間、土田先生のお話をお聞きしましたが、小さい子から大人まで理解できる、大変わかりやすい人権教育だと思いました。なんで？どうしたん？何かあったん？まずは気軽にこんな質問ができる関係つくりをしていこうと思います。ありがとうございました。

○何度聞いても、土田先生の言葉からエネルギーをもらえます。2学期からも頑張れます。

○「決めつけや思い込みをしてはいけない」この言葉がとても印象に残りました。今の私は、思い込みで物事を進めているかもしれないと、反省しました。２学期、「なんで？どうして？」という言葉をたくさん使いながら頑張りたいと思いました。

○土田先生の講演は4回すべて聴きました。毎年、教員としての日々を振り返りながら、明日への活力になることができていました。貴重な講義をありがとうございました

○子どもとの関係をどうやって築いていくことがいいのか考える機会となった。担任的には寄り添っていても、そうではないことも多々あることを踏まえて、寄り添い方を考えていきたい。

○自分自身の中に、刷り込まれている思い込み・刷り込みがあることに気づくことは、簡単ではないと思いますが、今回の自分の木を描くことを通して、確かにすべてのことをすべての人に同じように伝えることはできないと感じました。それは、なぜかを考えた時に、様々なフィルターがかかっていて、それが思い込みや決めつけと関わっていることを意識することができました。

○「どうした？」「どうしたい？」この頃意識して使うようになった言葉です。また、子どもたちを評価する立場にとどまるのではなく、「どういう授業がしたいの？」「こういう時はどんな気持ちなの？」と子どもの声を率直に聞かせてもらおうと思っています。 「思い込み・決めつけ」を自分がしていないか、自身の振り返りを続けていきたいです。
○「優しさと思いやりだけでは差別はなくならない」という言葉が心に刺さりました。社会構造や制度的な不平等に根本的な変化をもたらすには権利についてバランスよく学んでいかなくてはいけないと感じました。

○学級経営にとどまらず、教師として「人」としてのあり方について考えられました。今後に活かしていきたいです。

○人権教育は科学的教育である。道徳と分野が違う。という点に共感しました。タコさんの話は昨年もクラスで扱いました。今年も人物を変えて扱います。

○土田先生の講演を初めてお聴きしました。関西弁で軽快なお話。とてもわかり易く心にすっと入ってきました。決めつけないこと、まずは、どうした？なんで？からと思っていても、ついつい決めつけて自分がいます。今日は、問い直す時間をいただきました。たこさんになれるように努めていきたいです。

○「思い込み、決めつけ」と言われたときにドキッとしました。 一切ないかと考えたとき、やはりなにか情報があると、それが先行してしまい、関係なくても思ってしまう、決めつけてしまう自分がいるなとおもいました。改めて気付かされました。ありがとうございました。

○ハッとしたことが多くありました。決めつけたり、思い込んで生徒と話したり、指導・指示していたことがあったと反省しました。２学期からは、なんで？を大切に、生徒の思いや背景も大切にし、関わっていきたいと思います。

○具体的な教材を通して、人権教育の本質を示していただき、今まで不明確だった道徳教育との違いも自分の中でスッキリと理解することができました。ありがとうございました。これで土田先生のお話が伺えなくなるのは、とても残念です。

○見えないところ、自分が気づかないところで子どもを傷つけていなかったか…。ドキッとする土田先生の言葉でした。この子はこういう子、こうに違いないと決めつけていたと思います。今後は、キーワードの３つを意識して子どもたちに声がけをしていきたいと思います。また、現在、来年度のグランドデザインの素案を決めていくところです。校長先生の願いのもと、子どもたちにアンケートを取り、思いを汲み取っていきたいます。

○ハッとさせられることが多く、今までの自分を思い出して、反省もしました。温かい学級集団を作っていきたいと思いました。2学期、学級目標を子どもたちと見直すところから始めて、決めつけて子どもを見るのではなく、温かいタコさんのセリフを言える担任になりたいです。ありがとうございました。

○ステレオタイプでは対応しきれない、古い教育育ちの教師のカタイ頭を砕く先生のご講演、大変すっきりとしました。ありがとうございました。

○大変勉強になった。子どもとの関わりを考えていきたい

○差別の構造を知り、見抜いて差別をなくす大切さを学びました。それは本当のことなのか確認をせずに済ませていたことが多すぎていること、それが思い込みや決めつけ、偏見等につながっていることに気付かせていただきました。思いやりの大切さは十分理解できますが、それだけでは差別はなくならないということを強く再認識させてもらいました。本日はありがとうございました。

○「どうしたの？」まずは理由を尋ねること。なぜそうなったのか事実を確認すること。正しく理解し、子ども達の言葉で解決策を見いだしていく。低学年のうちから「なぜそうなったのか。では、どうすればいいのか。」と考えることができるような子ども達に育って欲しいと願う。

○職員室にて、大人数で楽しく参加させていただきました。

○昨年度の初任者研修で、講座を受講してから、2度目の受講をでき、とてもありがたかったです。土田先生のお話は、過去のことをあまり知らない自分にとって部落差別やいろんなことの構造を分かりやすくストレートに話して下さっていて、胸にすとんと落ちてきます。ありがとうございました。

○とても有意義だった。

○人権学習は、生き方学習という言葉が重くもあり、明確さを感じることができた。毎年、土田先生の講座はとても楽しく聞かせていただきました。夏休み明け、目の前の子どもたちへの言葉がけ、接し方を考えさせられる、よい機会でありました。

○また聞きによる、関係の崩れはよくあるので、偏見を持たないための見方や接し方を子どもたちと一緒に考えていきたいと思います。

○子どもだったら、ということを考えると同時に、自分はどうなのかということを考えるきっかけになった。土田先生の「はじまりは自分をみつめることから」という言葉を私も大切にしていきたいと思った。

○自分の姿を振り返るよい機会となりました。ありがとうございました。

○今回、特に印象に残っている場面は木を書き、枝を書き、葉っぱを書いて自分を説明する言葉を書いたところです。自分がどんな人なのか、自分の樹を書きましたが、これを子どもたちそれぞれが書く時、自分にとって意識していない当たり前のことでも、他の人にとっては外したいものになりうるのかもしれないと知り、改めて自分が当たり前だと思っていることを見直す必要があると感じました。

○自分の考え方、価値観、指導観を問われる、講義でした。具体的な例も提示してくださり、とても分かりやすかったです。

○とても学ぶことが多く、充実した研修になりました。思い込みや決めつけが自分の中にもたくさんあることに気づきました。ワークもぜひ子どもと一緒にやってみたいとおもいました。もっとお話聞きたかったです。ありがとうございました。

○講演のはじめに、自分の構成要素として「日本人」と書かない理由を問われたとき、はっとしました。日本人であることは意識するまでもない当たり前のこと。その「自分の当たり前」がそうじゃない人を話せなくしている、と言われて、無意識にしている「差別」に気づかされました。土田先生の話す関西弁はとても温かでした。私も子どもに対して、「どうしたん？」と自然に声をかけられる大人でいたいと思いました。

○先生のお話の中で、人権教育の重要性を伝えていただいていました。一方で、子どもの前に立つ教師の在り様、教師の人権感覚が常に問われているんだということも考えさせられました。私がどういう人であるかということが、その時この子にどんな言葉をかけるのかが密接に関係するということ。常に自分は思い込みや決めつけをしてしまう存在であることをまず知ることから始め、常に自分を高める機会を大切にして行きたいと思います。

○自分の当たり前を問い直す。子どもを見る目に決め付けていくのではなく、一人の個として尊重する関わり合いが大切だと思いました。人権感覚を磨いていきたいと思いました。

○思い込みを直すのは難しいと感じた。少し意識するだけでも思い込みを正せるのではないかと思う。今後に生かしていきたい。

○差別の構造を理解することができました。思い込み、決めつけが教師自身にもないか確認しながら過ごしていこうと思いました。目の前の子どもたちが共生していく行動力をつけるためにも自身の当たり前を常に問い直し、なんで？どうしたの？と個々と対話することを大事にしたいと思います。本日はありがとうございました。

○人それぞれにいろいろな思いや価値観をもって生きているということを再認識させてもらいました。子どもたちと関わる際に、今まで以上に「どうしたの？」「なんで？」「そうだったんだね。」を意識しながら声をかけていきたいと思います。

○毎年、土田先生の講演を楽しみにしていました。今年で一区切りとのことで残念です。人権教育、同和教育、道徳教育、それぞれの違いや大切さを分かりやすくお話していただきました。今年は、自分をみつめること、多様性の捉え方を学ばせていただいたと思います。なんでもよいわけではなく、共生社会の中で、思い込みや決めつけを外して自分らしく生きていくことが大事だと気付きました。「なんで？」から始めたいと思います。

○ワークがたくさんあり、参考になりました。

○自分の中に刷り込まれてきたことがいっぱいあるということを自戒し、「なんで、どうした？何があった」を合言葉に、２学期から子どもと向かい合っていこうと思います。

○子どもたちの思いを聞く努力をしてきたつもりではいたけれども，やはりこれも思い込みで，常に自分を振り返りながら進んでいくことが大切だと思いました。ずっと教室での自分の姿を思い浮かべながらお話をお聴きしました。２学期のスタートから，今回学んだことを実際に行っていきたいと思っています。ありがとうございました。

○昨年度も聞いた講座だったが、今年も聞いて参考になることが多く、とても良い内容だった。2学期には、すぐに学年目標で1学期に出来たところ、まだのところ、どうやって目標に近づいていくかこどもたちと話していきたいと感じた。

○久しぶりに土田先生のお話をお聞きして脳がリフレッシュできました。タイトルの子どもを「見る眼」を日々磨いていかないといけません。そのための教材であり、言葉がけであることを忘れず、土田先生のマインドを受け止めなければいけないのだと感じています。毎日子どもと接する中でしか磨かれない見る眼を磨き続けていきたいと思いました。

○最終ということが残念です。

○毎年受講させていただいてきました。受講のたびにハッとさせられる内容があり、大変勉強になります。自分の構成要素として、秘密にしておきたい、人には言えない部分がたくさんあり自分を見つめることは、苦しいことだなあと感じました。人権教育で大切なことは、マイノリティーを意識した生活を送ること。差別は構造的な問題であること。差別に立ち向かう行動力を養うことが大切であることを学ばせていただきました。

○思い込みや決めつけをしないよう、どうしたの？何かあったの？と教師が子どもにまず問いかけることの大切さが分かり、2学期から意識したいと感じました。また、教師がそうすることで、子ども同士でもこのようなやりとりが生まれるのではないかと感じました。一人一人が安全だと思えるクラス作りを目指し、人権感覚を磨き、今後も頑張りたいと思いました。ありがとうございました。今年が最後ということが残念です。

○人権教育と道徳は違う、みんな違ってみんないいは人権教育の視点からは違うなど、心に残るだけでなく、実践する上での意識や視点を持つことができました。たこさんすることで、決めつけないようにしないとです。子どもに対しても、先生方に対しても。ありがとうございました。

○低学年を担任していて、自分も子どもも思い込み決めつけトラブルに発展することがあった。今回の講座で学んだことを2学期から学級経営で活かしていきたい。

○毎回、自分のあたりまえを問い直す機会となりました。しっかり実践につなげていけるよう頑張ります。

○昨年の講座も参加させていただきましたが、土田先生の長年の実践からくるお話は、とても興味深く、はっとさせられることが多くありました。差別を生まない心を、まず自分を振り返るところから始め、思い込みを捨て、子どもたちと向き合っていきたいと思いました。ありがとうございました。

○人権教育の考え方、道徳との違いがスッキリとわかりました。自分自身も決めつけ・思い込みを子どもに対して、しているのではないかと、振り返ることができました。子どもがもう少し心の内を言葉にできるような問いかけ・言葉かけを2学期から心がけていきたいと思いました。

○自分がいかに思い込みや決めつけで凝り固まっていたかに気づかされる時間でした。

私自身が、教師として正しいと思ってやっていたこと、発していた言葉が、もしかしたら差別や偏見を生んでいたのかもしれないと思い、怖くなりました。自分の感情より、まずはその子の声を聞くこと、話してくれなくても「どうした？」と聞き続け、気にかけ続けることをやっていきたいと思いました。ありがとうございました。

○昨年に続き参加しましたが、何回か聞いていると身についてくる気がしました。共生社会を担う行動力のある子どもを育成できるよう何らかの形で子どもたちに投げかけていきたいと思います。ありがとうございました。

○自分自身が思いこみや決めつけをなくし、まず「どうしたの？」と声をかけることのできる教師ありたいと強く思いました。そして子ども達に、知らないから持ってしまう偏見や差別行為がないように知識や「たこ」になる勇気を伝えていきたいと思いました。4年間ありがとうございました。

○理由を言えないことに対しての考え方を改めるいい機会になりました。どんなことを言ってもいい、どんな自分でもいいという価値観が持てるような学級経営を目指したいと思います。

○当たり前を問い直して、「なんで？」と子どもに聞く日常にしたいと思いました。子どもも色々と話してくれるようになるかもしれません。

○学級経営や学級目標についての考え方、普段の自分自身の言葉などを見返し、身につまされることがたくさんあるお話でした。改めて人権教育のもつ重要性と自分自身を見つめ直すことの必要性を実感しました。今日学ばせていただいたことを、夏休み明けの眼の前の子どもたちの姿を見る視点やかける言葉に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

○「その子が何を思い、行動したかを考えることなく、決めつけていることはないか」自問自答するきっかけとなりました。「どうしたの？」「なんで？」を合言葉に、事実確認をして差別につなげないことを大切にしていきたいと思います。

○ご講演ありがとうございました。急遽対応しなければならない事案が発生したため、十分にお話をお聞きできず、残念に思っております。今年度で土田先生が最後とのことで、重ねて残念な思いです。

○土田先生のご講演をお聞きし、子どもの声を本当に聞けているか、自分の思い込みで見ていないかを改めて考えさせられました。思い込みが、偏見になり、排除や差別につながってしまう。そうならないためには、「ほんとう？」「なぜそう思ったの？」とやさしく問い返す姿勢が、子どもにも教師にも大切だと感じました。学校という場そのものが、子どもが安心して思いを語れる場となるよう、先生方と共に進めていきたいと思います。

○前回もそうだったが、具体的な教材が、人権教育の大事な部分でそれを正しく私たちがつかんでいないと自分が原因で傷つく子が生まれるということにつながっていることをわかりやすく教えていただいた。ありがとうございました。

○昨年に引き続き、お話をお聞きすることができ、非常に勉強になりました。「なんで？」という視点を私も大切にしていきたいと思います。

○思い込みや決めつけから、自分の都合ばかり伝えてばかりいる自分の姿を反省させられました。子どものうちにある思いを感じるためにも、「なんで？」「どうして？」「何があった？」「だったらどうしよう？」を実践していこうと思います。

○去年に続き、今年も土田先生の講演をお聞きしてとても面白く、心に響きました。自分の学級経営にぐさっと切り込まれた感じがしました。また気持ちを入れ直して子どもたちに向き合いたいと思います。自分の思い込みを、押しつけをなくしたいと思いました。大変勉強になりました。ありがとうございました。

○本校教頭に「教師なら絶対に聴いておくべきこと」と勧められて拝聴しました。現在の勤務校の課題と照らし合わせながら、子どもたちの姿を思い浮かべながらお聴きしました。「子のニーズ（声）にじっくり耳を傾ける」「子どもファースト」「眼力」「私たち教師に反省の機会を与えてくれる子どもの声」「人間関係は水平でなければならない」「自立のための支援」多くの言葉が心に刺さりました。本当にありがとうございました。

○人権学習を、まず2学期のスタートに据えたいと思いました。

○昨年度に続いて、土田先生の講座を受講させていただきました。学級づくりに大切なヒントをたくさん得られる時間だったからです。「なんで？」「どうしたの？」から始まる対話を大切にできる学級づくりをしていきたいと思いました。ありがとうございました。

○人権や多様性、子どもたちや自分自身を含めた人の心のありようや、今の世界の状況、ネット社会など、改めていろいろと考えさせられました。ありがとうございました。

○人権について自分の学級経営を見直すいい機会になりました。ありがとうございました。

○人権問題は思いやりだけでは解決しない、構造を変えることだという言葉に大きな収穫がありました。また、なんで？と確認することで偏見の階段を上らない人権的な生き方をできるよう、まず自分が意識していきたいと思います。

○世の中が変化しているからこそ、クラゲさんたこさんの話が胸に響きました。どなたが聞いても勉強になる話だと思います。

○人権教育や道徳教育の大切さ、大事なポイントをわかりやすく教えていただきました。クラスの中にタコさんをたくさん作れるようにしていきたいと思います。

○毎回土田先生のお話をお聴きして，いつも目から鱗が落ちる思いです。子どもファーストで考えたときに，どうしたのと聴くこと，聞いたことを「そうか」と受け入れること，そして「どうする？」と一緒に考えることとても大切だなと感じます。差別は構造の中にある。学校のそうした構造もなくしていかなければと強く思いました。ありがとうございました。また，ぜひお話お聞かせいただきたいと思います。

○自分自身のあたりまえを見直し、子どもに寄り添うことの大切さを考え直させられました。時にはひとりの人間として子どもと向き合い、寄り添っていける教師でありたいです。

○土田先生のおっしゃる「熱い思いがあっても、思いを押し付けることなく、子どもたちが思いを語れる学級集団」になるような学級経営を目指して、これからも頑張っていきたいと思います。 本日はありがとうございました。

○思い込みや決めつけをして、子どもをみている事があるなと振り返りながらお話を聞きました。決めつけから入らない、子どもの思いを大切にした学級経営のためにも差別の構造を心に留めてやっていきたいと思います。ありがとうございました。

○実際に決めつけから偏見へいくところへ止められなかった経験が去年あり、それを私だけがチェックするのが難しいと感じていました。そこで、私から子どもたちへ「なぜ、どうしたの、なんでそう思ったの」と聞く癖をつけていくことで、お互いにチェックしあえる関係を築けると感じました。

○毎年土田先生のお話を楽しみにしていました。今年度で最後になるのはとても残念です。

○知らず知らずのうちに子どもたちのことを決めつけているのではないかとはっとしました。私の学級ではなく、子どもたちの学級であり、子どもへの問い返し「どうしたの？」を大事にし、子どもたち1人1人が居心地よく過ごせる学校であり、学級づくりをしていきたいです。

○昨年度に引き続き参加しました。重複する内容もありましたが、改めて「たこさん」になれるような自分、子どもたちを育てていきたいと感じました。また、道徳と人権教育の違いがとても分かりやすかったです。

○思い込みの少ない視点は、見聞を広げ深める日常にあると感じました。

○具体的でわかりやすく、人権と道徳の違いがはっきりわかった講演でした。

○決めつけることの怖さを学ぶことができた。

○本日はありがとうございました。日々の自分を振り返って見ると、思い込みや決めつけに縛られているような気がします。「なんで？」「どうしたの？」など声がけをしなければと思いながら、時間に追われてていねいに子どもたちの話を聴けないときもあります。改めて余裕をもって子どもたちと接していけたらと思いました。

○道徳教育は、思いやりを学ぶ。人権教育は、社会の構造に目を向けて差別と戦う。そんな視点をいただきました。同和教育の必要性についても、かっこいいから、非合理性がわかりやすいから、という観点をいただき、今後の授業で念頭に置いていきたいと思いました。

○子どもの見方を変えたいと感じました。

○子どもの声を本当に聞くことができているか常に心していきたいと思いました

○子どもを見る目。人権教育の講演をありがとうございました。部落差別は、日本規模で考えると根深く残っている問題なのかと受け取りました。また、「少数派を忘れている」とのことですが、日本は神仏に対する考えも世界的には偏っています。LGBTQ問題について、オリンピックの事案や先行国内の事例から安易に触れられない難問であると感じます。根底にある刷り込みに気をつけなければと思いました。ありがとうございました。

○思い込み、決めつけ、錯覚により人を傷つけてしまうこと、改めて、心に停めておこうと思います。先日見たドラマの中に出てきた「信じるために疑う」ということにも通じるかなとも思いました。

○差別の目が無意識の自分から子どもたちに発信されていたということがとても怖かったです。だからこそ、自分を常に向上させて様々な人の、話に耳を傾けていきたいと思いました。

○前年の土田先生のお話がとても良くて、引き続き今年も受講しました。最終回で、とても盛り上がった良い講座でした。子どもたちが、本音を言ってくれるような教員になれるように精進していきたいと思いました。

○人権感覚や人権意識を改めて自身に問い直すことができる素敵な講座に参加できうれしかったです。 相手の態様に対して「なんで？」や「どうしたん？」などから始める声掛けの大切さを改めて確認できました。この声掛けを大事に教員生活を進めていきたいと思います。 8月7日も楽しみにしています。

○どうしたの？　と、まず聞くことから始めたい。学級経営に活かしたいお話が満載だった。

○これまで３回参加しなかったことを後悔しています。 「人権教育」とは社会の仕組みを変えていく力を養うことだという新たな理解をいただくことができました。これまでの自身を振り返りながら、自分の至らなさを痛感しながらお話をお聴きしましたが、自分のダメさが見えることが希望だと思えるとの最後のお言葉で救われた気がします。描けない葉があること、言えない人がいることを念頭に、子どもたちと向き合っていきたいです。

○まず、自分を見つめることは普遍的な課題で、あらためてその大切さや難しさを感じることができました。 自分の中にある「刷り込み」の自覚。衝撃的でした。

○「思い込み、決めつけ」について大きなご示唆をいただきました。 ありがとうございました。

○毎年、土田先生のお話を聴かせていただくたびに、自分自身のまわりの人とのかかわり方について振り返り、大切なことに気づかせていただいてきたように思っています。思い込みや決めつけに陥らないように、確認すること、無知のままでいないために学ぶことをこれからも大切にしていきたいと感じました。今年で終わってしまうのがさびしいです。４年間、ありがとうございました。

○無意識化で刷り込まれてきたものが偏見となり、子どもたちに無自覚に押し付けてしまっていることは無いだろうかと自問する時間になった。教育の場は特に、偏見や無自覚、無知に気づき、自身を修正していく努力が試されると感じました。

○土田先生の講座では人権について本当に多くのことに気づかされ学ばせていただいています。何やら今回で終了という雰囲気を感じましたが、来年度も引き続きご講演いただきますようお願い申し上げます。

○子どもを見る眼を養うために、どうして自分のことを見つめることが大事なのかなと思いましたが、自分の「当たり前」の感覚が、誰かを傷つけて居場所を奪っていることもあるということを教えていただきました。思い込みや決めつけが、偏見、さらに差別につながっていかないように、まずは自分から。そして学級という社会で生きる子どもたちとも一緒に気を付けていきたいと思いました。

○この度は貴重なお話をしていただきありがとうございました。 自分の思いや考えを子どもたちに押し付けていないかを振り返った時、ドキッとする場面がありました。 もう一度、土田先生の著書を読ませていただき、学び直したいと思います。

○2学期からの学級経営に活かせる内容でした。 子どもの見方、自分の思い込みもないかどうか夏休み中に振り返り、気持ち新たに2学期を迎えたいと思いました

○毎年楽しみに土田先生のお話をお聴きしました。我々教師の思いこみ、決めつけ、未確認が、クラスの子どもたちの偏見を生み出してしまうことは以前からとても危険なこととして感じていました。教師である自分が差別、偏見を生み出してしまわないよう、今後もタコさんを忘れずに子どもたち、先生方、周りの人たちと接していきたいと思います。ありがとうございました。

○毎年土田先生のお話をお聞きすると、ぱっと目が覚めるような思いになります。自分が知らず知らずのうちに思い込みや決めつけをしていることに気づかされます。まずは、目の前の子どもたちに「どうしたの？」と子どもの思いを聞くことから始めていきたいと感じました。また、部落差別についての知識は乏しいですので、自分でも勉強して、自身の人権感覚も高めていくべきだと感じました。

○子どもたちに対して、思い込み・決めつけを辞め、「どうしたの？」と声をかけることを心がけていこうと思います。

○偏った見方、考え方が自分にもあることを改めて実感しました。 子どもとの向き合い方を考えられる時間でした。ありがとうございました。

【初任者感想】

○当たり前を問い直すことの大切さを学んだ。特に、今の私を形成しているのは様々な刷り込みがあると実感したとき、生徒にも私の考えを押しつけてしまっている場面があったことにも気づいた。当たり前を問い直し、子どもの声を大切に、子どもファーストの学級を目指していきたい。

○土田先生のワークとお話から、私達は少数派を無意識に排除しているということを実感し、ショックを受けた。子どもとの対話を通した関わりを大切にし、私達教師が子どもの見本になれるようにしていきたい。

○自己紹介をするときに、「日本人」であることや「女性」であることを入れないのは、みんな日本人であり、見た目通りの性別だと思い込んでいるからだというお話を聞いて、その通りだと思った。自分が思い込んでいることに気づかされた。こういう思い込みによって教室に居づらくなる子もいると思う。教師として、そのことを忘れずにいたい。

○決めつけや思い込みから偏見が生まれ、それが差別につながる。そのお話を聞いて学校の問題に当てはめた時、まさにその通りになっていたと気付いた。教師自身も決めつけや思い込みで行動しないように、土田先生から教わった３つのステップを大切にしたい。

○土田先生に教わったように、思い込み・決めつけをせずに「どうしたん？」「何があったん？」などと声をかけ、日頃から子どもの声を拾いあげるようにすることを大切にしたいです。また、思いやりなどを学ぶ道徳と人権教育は違い権利を学ぶものだと教わりました。曖昧なところがあったので、これからの授業にしっかり活かしていきたいです。

○道徳と人権教育は似ているようで全く別なものだということに驚いた。子どものことを分かっているようで、ちゃんと理解できていないことを常に頭に置きながら接していかなければならないと思った。子どもファーストの学級を作っていきたいと思った。２学期に学級目標を分析しようと思う。

○すべての取り組みを「どうした？」「何があった？」で始めること。そして、その思いを受け止め共に考える。「私自身がどう見ているのか？」そして子ども達のことを知らないと見えてこない。上から抑え込むのではなく、思いを聞き取る努力をしていきたい。

○今回の講義で、子どもの良い面もそうでない面も見ていくこと、そしてコミュニケーションをとることの大切さを学びました。昨年度も土田先生のお話を聞かせていただき、子ども達に「なんで？」と聞くことを意識してきた。子どもたち同士でトラブルが起きた時に「なんで？と聞いてみよう」と促すと、話し合う場面が見られた。お互いを理解するための言葉として本当に大切な言葉だと感じました。

○「いいところだけを見ても子どものすべては見えない。」という土田先生の言葉が心にささりました。嫌な面ばかりが目に付く児童に対して、良い面を探さなければと思っていたが、嫌なこともすべて含めてその子だと考えると嫌な面も個性に見えてくるなと感じた。２学期は「たこさん」になれるように「なんで？」「どうしたの？」をキーワードにしていきたい。

○「たこさんになろう」の話では自分のクラスでも実践できそうだと感じた。多様な人間関係を認め、尊重しあいながら学校生活を送るには、人権教育が必要不可欠だと思う。今まで、人権教育は難しいものという思い込みがあった。今回の講義から人権教育は日常の中から始まることを学んだので実践してみたい。

○子どもを見る眼。いろんな角度から見ることの大切さ。「どうしたの？」と子どもに聞いたら話をしてくれるような人間関係を築いていけるように。子どもの気持ちに寄り添う教師でありたいと思った。

○「子どもを見る眼」というテーマで講義をしていただきました。土田先生のお話を聞いて、普段自分が何気なく発している言葉、ふるまい、持っている価値観が自分視点であることに改めて気付きました。子ども達のことをすべて知るのは難しいと思います。だからこそ、知っている、分かっている気にならないで「どうしたん？」と聞くことを大切にしたいです。

【参集者】

○パワフルな土田先生のお話に元気をもらいました。オンラインで3年間聴きました。今日、参集でお聞きできてよかったです。

○多様な子どもたち、多様な保護者、対応に疲れている同僚（自分も含めて）を日々感じる毎日でした。今日はそんな毎日を前向きに乗り越えていけるヒントを頂きました。多様だからこそ、誰も取り残さない学級づくり、学校、地域となる共生社会を目指して日々の取り組みをしていきたいです。差別の構造もよくわかりました。

○自分の考え方について改めて見つめ直すことを学んだ講演でした。「人権とは」「差別とは」について自分の中でモヤモヤとした部分があったのですが、今日のお話で整理することができました。

○道徳と人権教育の違い、道徳の思いやりを人権意識が育ったと混同している自分がいました。教師のありようが子どもたちに広がっていくことを感じていましたが、最後の質問に対する先生の回答から、まず自分の有り様を見つめ行動しなければと思いました。人として大切なことを学んだ4年間でした。

○自分自身のあたりまえを問い直す、あっという間のはっとする時間でした。人権教育、思い込みから偏見への階段を上らせない言葉がけ、大変参考になりました。

○自分自身の思い込みや決めつけにはっとさせられることが多くあった講演でした。私自身の無知＝子どもを知らないことでものが言えないクラスになっているのではないか、日々の子どもたちとの関わりを見返し、夏休みの間に自己と向き合いたいと思います。

【運営面】

○学びの深い講座を用意してくださり,ありがとうございます。

○臨地講習で人気のあるものは、ぜひ、回数を多くし、行なってもらえるようにしていただけると嬉しいです。

○一人ひとりNOや名前が入った通知をご準備いただき恐縮です。事務局の皆様のご負担を減らす方向をご検討ください。そこまで丁寧にしなくてもよいのではないかと感じます。

○Zoomで参加できる講座を設けていただけるようになってから、数多くの講座を参加しやすくなりました。ありがとうございます。

○会場の臨場感が伝わってくる、映像でありました。ありがとうございました。

○素敵な研修をありがとうございました。

○話し合いの様子も工夫していただき、ありがとうございました。

○オンラインで参加させていただきましたが、聞き取りやすく、動画も見やすかったです。 ありがとうございました。

○会場とオンラインの開催で大変かと思います。オンラインでも土田先生の動きをカメラで追っていただいたり、グループ活動の様子をカメラを切り替えていただいたりして下さり、始終講座を楽しむことができました。ありがとうございました。

○接続がうまくいかず、開始時間が遅れて、何のための接続テストだったのかな？と思いました。

○ありがとうございました。 オンラインでの開催はとてもありがたいです。事前の資料配付もデジタル化して、運営の皆様のご負担軽減を図っていただければと思います。

○あらかじめの資料を丁寧な内容にしていただき、ありがたかったです。

○午前、午後をオンラインで自宅から研修しています。午前も午後も半日の職免扱いにしてもらえるとありがたいです。午前午後受講しても、余白の時間は年休取得しないといけません。その余白の時間に事前学習や振り返りをしているのですが。

○仕方のない面もあるかもしれませんが、休憩時間など、計画の時間通りに進めていただけるとありがたいと感じました。

○学びある講座をありがとうございます。

【来年度への要望】

○特別支援教育の著書も出されている平熱先生のお話を聞きたいです。

○話し方講座のようなもの。自分の言葉選びを気をつけるようになる人が増えるような講座。

○白井康次郎さん、我武者羅応援団の団長さんに、なぜそれを行なっているのか、諦めない大切さなどを教えてもらいたいです。

○環境問題についてのお話を聞いてみたいと思います。 人権問題の世界規模のお話も聞いてみたいです。

○落語家、お笑い芸人

○土田先生のお話は今年で最後ということでしたが、今まで受けたことがなく、とてもお話が勉強になったので、もう一度お話をきかせてほしいです。最後の年に聴けてラッキーでしたが、もっときいてみたかったです。

○環境問題について・子どもの発達や支援について・もっと長野県内を知る講座

○長野県の同和問題・同和教育の取り組みについて（高橋典男さん、島田一生先生など）

○今年度初めて長野市にお世話になったので、土田先生の講義を来年も受けられたらうれしいと思った。また、玉置崇先生の講義があれば、受けてみたい。

○土田先生がこれで終わりになるのが、とても残念です。

○赤坂真二氏（上越教育大学）　岩井俊憲氏（アドラー心理学）

○人権感覚を磨き続けることが大切なので、人権感覚を磨く講座は引き続き開設していただきたいと思います。

○土田先生の講演の継続をお願いしたいです。

○学級経営について

○コーチングや聴き方について

○教育長の講演。今の長野県教育はどうなのか考えをお聞きしたい。

○永井　恵さん（ＬＧＢＴＱの当事者としてカミングアウトされたうえで、公立中学校で教員をされている）昨日、日本学校保健主事研究大会で講演をお聞きした。ぜひ多くの先生方にも聞いていただきたいと思った。

○ウェオビーイングな思考、学習、生活について受講したいです。

○土田先生のようなお話が聞ける講座を引き続きお願いします。

○人権の話は聞きたいなと思います。

○様々な事情をもった子への対応の講座を受けてみたいです。

○土田先生のご講演を来年度も希望します。

○土田先生のお話を聞きたいし、ワークショップなどいろいろなことに気づける研修をしたい。